

トラブル続出 現場困惑

政府は来年の秋から、現行の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードへの統合をめざし押しされています。そのためのオンライン資格確認システムの導入を医療機関に4月から義務付けられています。しかし、そのシステムでトラブルが続出し、現場は頭を抱えています。

導入直後起動せず

「業者」聞いてもトラブルの解決方法を知る人がわらず、電源を何度か入れ直すと戻った。何が原因か、わからずじまいだつた。困った表情を見せながらそう話すの

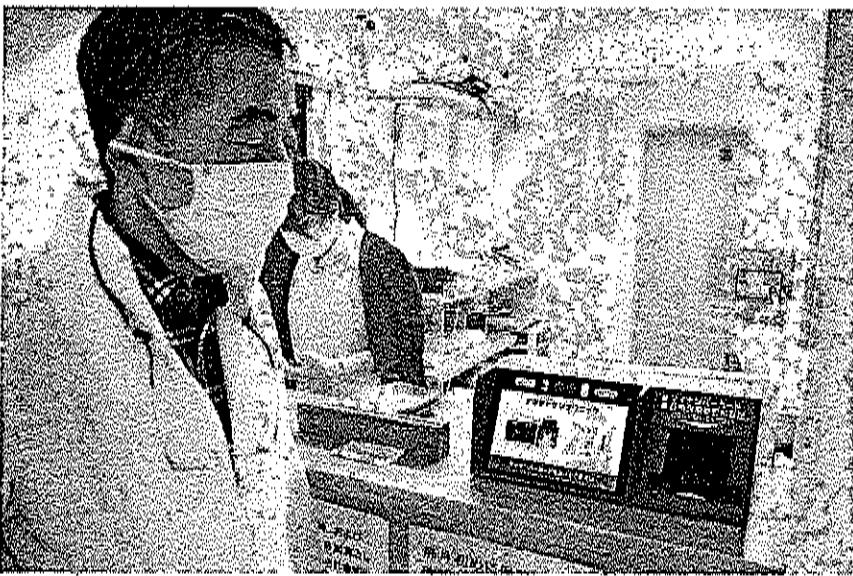
は、千葉市緑区の皮膚科医、中村健一さん。中村さんのクリニックは昨年8月末、オンライン資格確認システムを導入しました。

中村さんのクリニックに設置した顔認証付きのオンライン資格確認システムは、運用開始後も、患者から提示された保険証とシステム上の情報が一致しないトラブルが多く発しています。

全国保険医団体連合会

が昨年10月から11月にかけて行った調査では、オンライン資格確認システムを導入した医療機関の4割で不具合・トラブルが発生。「有効な保険証が無効となる」「カードリーダーの不具合」などが発生しています。

中村さんは、「今は保険証の券面の情報を信用して保険診療を行っています。しかし、マイナンバーカードになれば券面



「トラブルの原因はわからずじまい」と、マイナ保険証読み取り機の前で話す中村健一さん=千葉市緑区

オンライン資格確認システムは、患者の健康保険証に記された番号など的情報を入力すると、健保組合などの保険者とつながり、患者の保険証が有効かを確認するシステムです。同システムの利用実績は、昨年12月末までに保険証での照会が約6億件あるのに対し、マイナンバーカードは約495万件にとどまっています。

中村さんのクリニックでは、2014年秋の保険証廃止に65%が反対していました。この中で、「システム不具合時に診療継続が困難になる」との回答は74%に達しています。

中村さんはオンライン資格確認システムについて、「トラブルが起きると現場は大変なことになります。すべてをデジタル化するのではなく、アルゴリズムを残すべきです」と強調しました。